

増毛山地の未知の湿原を歩く

岩見沢市 齋藤 央

零、貧乏人のリモートセンシング再び

2015年後半以降、私は石狩平野の随所に見られる原野様地形をネット地図サービス（Google マップ、Yahoo! 地図）で探し、湿原の植物が残存しているとみられる地域を探索してきました。『北方山草』第33号 p.95 で諧謔気味に「貧乏人のリモートセンシング」と呼んだ手法です。確率こそ低いものの残存湿地に行き当たるケースが複数あり、2017年に発足した、しめっちネット（石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク）主催の合同探索会の対象地選定にも役立ててきました。

2018年秋頃から、石狩平野で一定程度の効果を発揮してきたこの手法が、他の地域でどの程度通用するのか、という問題意

識が頭をもたげてきました。折しも、しめっちネットの合同探索会の対象が石狩大湿原の残存湿地に偏っており、石狩川やその支川の上流域・源流域にある山地湿原が対象になっておらず、この空白を埋める必要も感じておりました。

幸い、増毛山地には「北海道の尾瀬」の異名を持つ雨竜沼湿原があります。雨竜沼湿原同様に、周囲の樹林やササ群落に比べて背が低い植物で覆われていたり、池塘が点在したりしている区域が見つければ、そこは湿原である可能性があります。航空写真が早春か晩秋に撮影された場合、常緑のササ群落と枯葉色ないしは草紅葉を呈する湿原は、更に区別が容易になります（図1）。問題は、雪溪や雪田も雪が完全に融けると

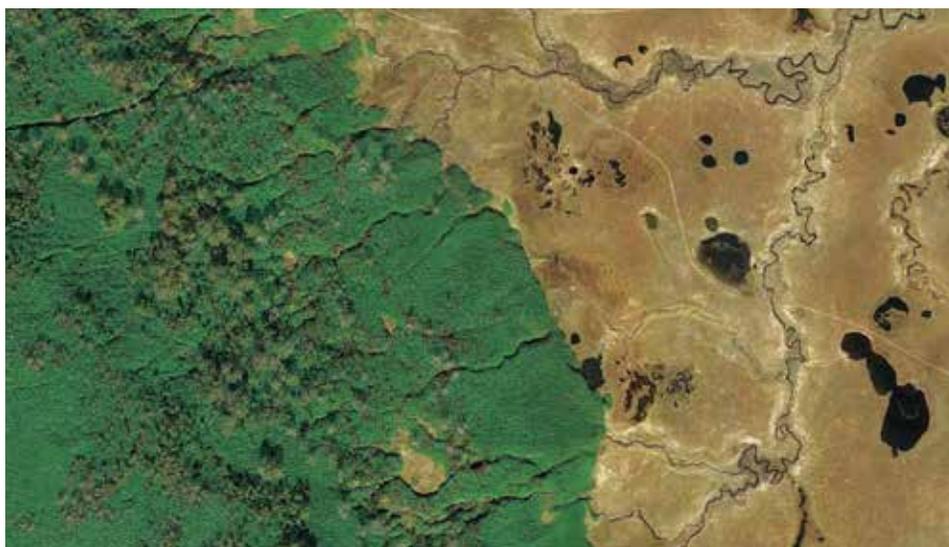


図1 雨竜沼湿原の航空写真。西半分の緑色で植物高が高いチシマザサ群落と、東半分の褐色で植物高が低い湿原が、明瞭に区別できる